

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況					成果指標															
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	対前年度比											
1 安心して生み育てることができる環境づくり	(1) 母子保健	① 安全に安心して妊娠・出産できる環境づくり	0	11	0	0	2	妊娠11週までの妊娠届出者の割合	増加	93.8%	94.0%	91.7%	▲ 2.3 pnt	3	2	<p>[指標の説明]</p> <p>※妊娠11週までの妊娠届出者の割合は、前年度比減となったものの、90%超の高水準を維持。</p> <p>※生後4か月までの乳児家庭訪問の割合は微増で3年連続で上昇。</p> <p>※「10代の人工妊娠中絶率」は、減少。</p> <p>[評価]</p> <p>>10代の妊婦を含む妊産婦と乳幼児の健康管理や、養育支援が必要な家庭に早期に関わる取組みも順調である。また、妊娠・出産・子育て期の切れ目ない支援として、思いがけない妊娠に関する相談窓口を設置するなど、産前・産後サポート体制や相談機能の充実を図り、効果的な支援を行うことができたと考えている。</p> <p>[今後の方向性]</p> <p>>今後も、子育ての孤立化を防ぎ、地域での見守り体制を充実していくために、関係機関と連携して、母子の健康保持・増進を図り、安心して生み育てることのできる環境づくりを進めていく。</p>							
		② 発達気になる子どもの早期発見、早期支援体制の強化	0	2	0	0		生後4か月までの乳児家庭訪問の割合	増加	93.0%	95.2%	95.5%	0.3 pnt	2									
		③ 養育支援の必要な家庭に対する支援の充実	0	9	0	0		10代の人工妊娠中絶率	減少	13.7%	14.1%	11.7%	▲ 2.4 pnt	2									
		④ 基本的な生活習慣の定着や食育の推進	1	8	2	0		33/35事業															
		⑤ 適切な思春期保健の推進	0	2	0	0																	
		計	1	32	2	0							94.3%										
	(2) 母子医療	① 周産期医療・小児救急医療体制の維持・確保	2	3	0	0	1						周産期医療、小児救急医療体制	維持	維持		維持	維持	-	-	1	1	<p>[指標の説明]</p> <p>※市立医療センター総合周産期母子医療センター等4病院を中核とした産科連携体制を維持。</p> <p>※市内医療機関の連携による24時間365日対応の小児救急医療体制を維持。</p> <p>[評価]</p> <p>>引き続き、周産期・小児救急医療体制を維持したことにより、市民に大きな安心感を与えることができ、本市の子育て環境の高評価につながっている。</p> <p>>また、不妊治療への助成や、子ども医療費支給制度を維持し、支援は順調に進捗している。</p> <p>[今後の方向性]</p> <p>>引き続き、医師の確保などにより、支援体制の維持を図っていく。</p>
		② 子どもの感染症予防の推進	0	1	0	0							7/7事業										
		③ 不妊治療に関する支援の充実および市民の理解促進	0	1	0	0																	
		計	2	5	0	0		100%															
	(3) 子育ての悩みや不安		① 地域における子育て支援の環境づくり	8	39	1	0	1	子育ての悩みや不安を感じる人の割合 (i) 就学前児童	減少	23.9%	25.9%	34.8%	8.9 pnt	3		3	<p>[指標の説明]</p> <p>※子育ての悩みや不安を感じる人の割合は、増加傾向にある。</p> <p>[評価]</p> <p>>親子ふれあいルームの利用者数や子育て支援サロン「ぴあちえーれ」における相談件数は、いずれも増加しており、子ども・家庭相談コーナーの相談件数は減少したものの約8万件と高い水準にある。また、地域の子育て支援団体の活動支援を行うなど、市民の子育ての悩みや不安の軽減に努めた。</p> <p>>子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合は、年齢が上がるにつれ減少傾向にあるが、「女性の社会進出、生活様式の変化等により、地域との関わりは少なくなっているかもしれないが、保健師のほか、親子ふれあいルームや幼稚園、保育所などが相談の場となっている。」という意見もあり、「地域」という括りを越えた、様々な形での支援が広がっているとも考えられる。</p> <p>[今後の方向性]</p> <p>>引き続き、子育ての悩みや不安をできる限り減らすことができるよう、これまでの取組みをさらに推進していくとともに、さらなる周知を図っていく。</p>					
			② 市民が利用しやすい相談体制	1	7	0	0		(ii) 小学生	減少	29.4%	30.0%	40.0%	10.0 pnt	4								
			③ 必要とされる子育てに関する情報が市民に届く仕組みづくり	0	5	0	0		(iii) 中学・高校生	減少	28.1%	29.9%	41.0%	11.1 pnt	4								
			④ 少子化への対応や多様化・複雑化した悩みへの支援	3	7	0	0		子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合 (i) 就学前児童	増加	49.0%	47.6%	49.3%	1.7 pnt	2								
			計	12	58	1	0		98.6%	(ii) 小学生	増加	64.2%	61.1%	60.0%	▲ 1.1 pnt				3				
									70/71事業	(iii) 中学・高校生	増加	61.1%	60.9%	59.6%	▲ 1.3 pnt				3				

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況					成果指標										
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	対前年度比						
1 安心して生み育てることができる環境づくり	(4) 家庭の教育力の向上	① 子どもの健全育成の基礎となる家庭の教育力の向上	1	10	2	0	2	朝食をほぼ毎日食っている児童の割合（就学前児童）	100%	93.8%	93.0%	93.9%	0.9 pnt	2	B	<p>[指標の説明]</p> <p>*朝食を毎日食っている児童・生徒の割合は、いずれも高水準を維持。</p> <p>*就寝時間が午後10時以降の児童の割合は、前年度に比べ減少。</p> <p>[評価]</p> <p>>これまでの啓発等の取組みにより、食事等の基本的な生活習慣を身につけることの重要性が、家庭内でも浸透してきたと考えられる。</p> <p>>朝食の内容の充実が必要な家庭が存在する。</p> <p>>親の勤務の影響を大きく受ける就寝時間については、親の意識向上だけでは、改善が難しいと考えられる。</p> <p>[今後の方向性]</p> <p>>引き続き、基本的な生活習慣に加え、生活の質の向上にも視点をあてるなど、さらなる家庭の教育力向上を目指す。また、働き方の見直しなど、社会全体で子ども中心の生活スタイルに改善する機運を高めていく。</p>		
			② 地域等と連携した家庭の教育力の向上	0	4	0		0	就業時間が午後10時以降の児童の割合（就学前児童）	減少	22.7%	26.6%	25.2%	▲1.4 pnt			2	
		③ 非行や虐待を生まないための家庭の教育力の向上	1	1	0	0		17/19事業	朝食を「毎日食っている」「どちらかといえば食っている」と回答した児童の割合（小学6年生）	100%	92.0%	92.4%	92.4%	±0			2	
									（中学3年生）	100%	90.5%	90.8%	91.0%	0.2 pnt			2	
		計	2	15	2	0		89.5%	家族の人が話をよく聞いてくれる割合（小学6年生）	増加	87.5%	88.8%	-	-			-	-
									（中学3年生）	増加	86.6%	80.3%	-	-			-	-
	(5) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進	① 事業者等との共同による仕事と生活の調和の推進	1	5	0	0	1	仕事と生活の調和がとれていると思う人の割合	増加	48.0%	49.0%	53.4%	4.4 pnt	2		C	<p>[指標の説明]</p> <p>*仕事と生活の調和がとれていると思う人の割合は、前年度に比べ増加し、3年連続で上昇。</p> <p>*父親の家事参加率は、前年度同水準、育児参加率は、前年度に比べ減ったものの、90%超の高水準を維持。</p> <p>[評価]</p> <p>>ワーク・ライフ・バランスについての市民や企業等に対する働きかけは順調で、広く意識醸成を図ることができた。</p> <p>>「父母ともに」子育てをしている割合は、減少したが父親の家事・育児参加率は一定水準を維持していること、また、「『仕事が忙しい中、可能な範囲でしてくれる。』『精神的に助けられている。』などの声もあり、父親の家事・育児参加は浸透してきていると考えられる。</p> <p>[今後の方向性]</p> <p>>引き続き、市民や企業等に対し、ワーク・ライフ・バランスの実践や育児参加を働きかけていく。</p>	
								② 男性の家事・育児への参画促進	2	3	0	0	就学前児童をもつ父親が、家事・育児をしている割合（ⅰ）家事	増加				69.3%
		（ⅱ）育児	増加	90.4%	92.8%	91.2%							▲1.6 pnt	3				
		計	3	8	0	0		100%	主に子育てをしているのが「父母ともに」と回答した人の割合（ⅰ）就学前児童	増加	51.2%	51.6%	49.7%	▲1.9 pnt				3
									（ⅱ）小学生	増加	51.1%	49.8%	46.8%	▲3.0 pnt				3
		(6) 安全・安心なまちづくり	① 子育て家庭が利用しやすい公園・遊び場の整備	0	3	0		0	2	子どもの遊び場や公園に対する満足度	増加	48.7%	52.2%	52.1%				▲0.1 pnt
	② 安全・安心を実感できる街づくりの推進						9			4	1	0	子どもとの外出時に安心と感じる割合	増加		40.5%	39.4%	42.2%
			③ 子育てに優しい都市環境の整備	1	3	0		0					30/32事業	93.8%		計	17	13
	④ 子育てしやすい住環境の提供						4			2	1	0						
			⑤ 交通安全の推進	3	1	0		0										

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況					成果指標									
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	対前年度比					
2 子どもの育ちを支える 幼児期の学校教育や 保育の提供	(7) 幼児期の学校教育や 保育の提供	① 保育の量の確保と教育・保育の 質の向上	16	16	5	1	2	保育所待機児童数 (4月)	0人	0人	0人	0人	±0	1	2	B	
			2	5	0	0		② 幼稚園、保育所等における多様なニ ーズに対応した保育サービスの充実	0人	139人	148人	57人	▲91人 (▲61.5%)	1			
			2	7	0	0		③ 幼稚園、保育所等における障害児保 育の充実	向上	86.9%	79.7%	88.5%	8.8 pnt	2			
			0	1	0	0		④ 保育所、幼稚園等と小学校の連携の 充実	向上	86.1%	86.1%	87.0%	0.9 pnt	2			
			3	10	1	0		⑤ 幼稚園、保育所等における子育て支 援の充実	向上	89.6%	85.4%	91.4%	6.0 pnt	2			
			2	1	0	0		⑥ 教育・保育に関する情報提供	向上	89.3%	87.1%	91.1%	4.0 pnt	2			
			計	25	40	6		1	90.3%	90施設	54施設	82施設	90施設	8施設 (9.8%)			2
									65/72事業	全施設	154施設	158施設	164施設	6施設 (3.8%)			2
3 子どもや若 者の健やか な成長や自 立を支える 環境づくり	(8) 放課後児童 クラブ	① 放課後児童クラブの運営基盤の強化	1	1	0	0	1	放課後児童クラブの待機児童 数(4月)	0人	0人	0人	36人	36人	3	2	B	
			0	5	0	0		② 放課後児童クラブの魅力向上	向上	65.8%	64.3%	64.8%	0.5 pnt	2			
			1	6	0	0		計	向上	73.4%	74.9%	78.8%	3.9 pnt	2			
								100%									

[指標の説明]
*保育所待機児童(4月時点)は、0人を維持。
*保育所待機児童(10月時点)は、前年度比減少。
*幼稚園・保育所の満足度は、前年度比増加。

[評価]
> 保育所の定員増、小規模保育事業の開設、認定こども園への移行支援、一時預かり事業(幼稚園型)などを行い、受入児童数の拡大を図ったことにより、引き続き年度当初の待機児童ゼロを達成することができた。

> 「女性の社会進出が一層進んでいること」「積極的な保育の受皿の拡充が新たな需要を掘り起こしていること」等により、想定を上回る勢いで保育ニーズが高まっている中、就職説明会の開催や保育士・保育所支援センターの運営強化などの取組みにより、保育士確保に努めた。あわせて、保育サービスコンシェルジュの機能強化により保育の利用を希望するそれぞれのニーズに合った情報提供やきめ細やかな対応を行うことができた。

> 学校関係者評価や第三者評価を通じ、幼児期の学校教育や保育の質の向上に取り組んだ。

> 延長保育や一時保育など親の働き方等に合わせた多様な保育サービスを提供するとともに、特別支援教育助成事業の充実により、特別な教育的支援を要する幼児の就園先を確保することができた。

[今後の方向性]
> 今後も高い満足度を維持していくためには、ハード面の整備も必要と考えられる。また、教育・保育の内容の満足度を維持していくためには、職員配置や処遇の改善、職員の事務負担の軽減に取り組んでいくことも必要である。

> 引き続き、年間を通じた待機児童の解消、満足度向上のため、ソフト・ハード両面から、幼児期の学校教育や保育の質と量の向上に取り組んでいく。

[指標の説明]
*クラブの待機児童数は36人。
*満足度は、施設・環境、開所時間等ともに前年度に比べ増加した。

[評価]
> 年度当初の待機児童は、1クラブ36人となったが、施設整備により年内に解消した。

> 19時まで開所しているクラブの割合は前年度に比べ大幅に増加している(実施率33.8%⇒40.3%)。また、夏休み期間や土曜日の朝の開所時間を早めてほしいという声なども寄せられている。

> なお、小学児童を対象に行ったアンケートでは、90.1%が「クラブは楽しい」と回答しており(前年度アンケート92.6%)、子どもの満足度は依然として高い状況である。

[今後の方向性]
> 放課後児童クラブの施設整備や利用内容の充実など、引き続き運営基盤の強化を図る。

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況					成果指標									
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	対前年度比					
3 子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	(9) 青少年の健全育成	① 青少年への社会体験活動等の機会や場の提供	10	23	1	1	2	青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動者数	増加	5,415人	5,734人	5,387人	▲347人 (▲6.1%)	3	2	<p>B</p> <p>[指標の説明] *青少年のボランティア体験活動は減少。 *非行者率は着実に低下。</p> <p>[評価] > 青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動者数は減少したものの5,000人を上回る規模の参加者数で推移しており、青少年の成長に欠かすことのできない体験活動の提供により、青少年の健全育成は、着実に進捗していると考えられる。</p> <p>> 非行者率は、減少してきており、非行防止教室・薬物乱用防止教室の実施や、地域・学校・警察等と連携した支援体制が成果をあげていると考えている。</p> <p>> いじめ・不登校等の問題については、確実な実態把握に努め、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置や関係機関との連携により、きめ細かな対応を行っている。</p> <p>[今後の方向性] > 引き続き、関係機関等と連携し、青少年の健全育成に取り組む。</p>	
		② 有害環境から青少年を守り、非行を未然に防止するための取り組みの推進	3	5	0	1		非行者率 (少年人口1,000人あたりの人数)	7.0人	7.9人	6.4人	5.4人	▲1人 (▲15.6%)	1			
		③ 危険ドラッグをはじめとする薬物の乱用防止対策の推進	0	3	0	0		いじめの解消率 (i) 小学生	100%	87.6%	99.1%	-	-	-			
		④ 不登校やいじめの未然防止、解消に向けた取り組みの推進	0	4	0	0		(ii) 中学生	100%	97.7%	97.1%	-	-	-			
		⑤ デートDV予防啓発の推進	0	1	0	0											
		計	13	36	1	2		49/52事業 94.2%									
	(10) 子ども・若者の自立や立ち直りの支援	① 若者の自立を支援する環境づくり	2	4	0	0	1	「YELL」来所相談者の就業等実績(累計)	500人	291人	337人	390人	53人 (15.7%)	1	<p>A</p> <p>[指標の説明] *若者の自立をサポートする「YELL」の来所者の就業等の実績が向上。 *非行歴のある青少年の雇用主の受入は前年度同数。</p> <p>[評価] > 子ども・若者応援センター「YELL」において、悩みや課題を抱える若者に対し、自立に向けた支援等を継続的に行った結果、今年度は53名が就労・就学に至り、毎年、着実に自立につなげることができている。</p> <p>> 非行歴のある青少年を受け入れる協力雇用主は、185社から208社に増加し、受入体制の強化につながっている。</p> <p>[今後の方向性] > 若者が社会生活を円滑に営むことができるよう、引き続き、自立を支援する環境づくり、非行からの立ち直りを支える取組みを進めていく。</p>		
			② 非行からの立ち直りを支える取り組みの推進	2	2	0		0	北九州市協力雇用主見舞金登録者数	増加	17人	72人	72人	±0			2
			計	4	6	0		0	10/10事業 100%								

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況					成果指標										
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	対前年度比						
4 特別な支援を要する子どもや家庭への支援	(11) 社会的養護が必要な子どもへの支援	① 児童養護施設における生活環境整備等の促進	1	6	0	0	1	地域小規模児童養護施設・小規模グループケアの実施が所数	23か所	15か所	16か所	16か所	±0	2	2	B	<p>[指標の説明]</p> <p>*家庭的な養護を推進する施設等(地域小規模養護施設・小規模グループケア)は前年度同数。 *里親やファミリーホームなどの委託率が減少。</p> <p>[評価]</p> <p>>地域小規模児童養護施設で、社会的養護が必要な子どもが、家庭的な環境と安定した人間関係のもと、きめ細かなケアを受けられる体制が拡大した。</p> <p>>里親制度やファミリーホームの普及啓発を行った結果、里親等の委託率は、減少したものの、それぞれの子どもにあった養育環境の整備を進めることができた。</p> <p>[今後の方向性]</p> <p>>今後も、社会的養護が必要な子どもが健やかに生まれ、自立できる社会環境整備に努める。</p>	
		② 里親や小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム）の普及促進	0	3	0	0			10/10事業	[H31年度]								(0%)
計		1	9	0	0	100%	要保護児童数に対する里親・ファミリーホーム委託率	20.0%	17.5%	20.8%	19.0%	▲1.8 pnt	3					
4 特別な支援を要する子どもや家庭への支援	(12) ひとり親家庭等への支援	① ひとり親家庭の生活の安定と向上					2	ひとり親家庭の就業を支援する施策の利用数(母子・父子福祉センター延べ利用者数)	増加	10,015人	11,323人	10,520人	▲803人	3	2	B	<p>[指標の説明]</p> <p>*母子・父子福祉センターの利用者数は、減少。 *ひとり親家庭の支援・相談窓口のうち、子ども・家庭相談コーナーを知らない人は減少。</p> <p>[評価]</p> <p>>ひとり親家庭の支援・相談窓口である母子・父子福祉センターの延べ利用数は、1万人を超える水準で推移しており、多数の支援を行うことができた。</p> <p>>子どもの居場所づくりの取組みとして、仕事などの都合で保護者の帰宅が遅くなるなどニーズのある家庭の子どもであれば誰でも利用できる子ども食堂をモデル事業として市内2ヶ所で継続実施した。さらに、民間が運営する子ども食堂の拡大に向け「子ども食堂ネットワーク北九州」および「子ども食堂開設支援事業補助金」を創設した。</p> <p>>「ひとり親家庭面会交流支援事業」を継続実施するなど、ひとり親家庭の生活の安定と向上につながる取組みをさらに進めることができた。</p> <p>>子どもの貧困対策については、効果的な施策の推進に向け、局間で連携し、情報交換等を行った。</p> <p>[今後の方向性]</p> <p>>引き続き、ひとり親家庭が自立し安定した生活を営むことができるよう、生活支援や就業支援などに取り組んでいく。</p>	
			ひとり親家庭の支援・相談窓口を知らない人の割合(Ⅰ)母子・父子福祉センター	減少	39.8%	52.1%		52.6%	0.5 pnt									
			(Ⅱ)子ども・家庭相談コーナー	減少	14.5%	9.6%		8.6%	▲1.0 pnt									
		② 子どもの貧困対策						28/30事業	ひとり親家庭の就業率(5年に一度調査を実施)(Ⅰ)母子家庭	増加	-	87.9%	-	-	-	2	2	B
			[H23 83.6%]						(Ⅱ)父子家庭	増加	-	94.2%	-	-	-			
計	2	26	2	0	93.3%	[H23 91.8%]												

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」（北九州市次世代育成行動計画） 14の施策の評価結果

政策	施策	柱	活動の状況					成果指標								
			大変順調	順調	やや遅れ	遅れ		指標	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	対前年度比				
4 特別な支援を要する子どもや家庭への支援	(13) 児童虐待への対応	① 児童虐待の発生予防・早期発見・早期対応および適切な支援	0	11	0	0	1	児童虐待対応件数	減少	606件	918件	1,139件	221件 (24.1%)	-	-	<p>[指標の説明] *児童虐待対応件数は増加。</p> <p>[評価] >児童虐待の発生予防・早期発見等を図るため、関係職員等に対する研修会を実施するとともに拠点病院に配置した児童虐待専門コーディネーターを活用する「児童虐待防止医療ネットワーク事業」のさらなる推進を図るなど、対応強化を進めた。</p> <p>>結果として、児童虐待対応件数は増加傾向にあるが、これは取組み強化によって、潜在化していた事案の掘り起こしにつながっているためであると推測され、「早期発見・早期対応」という本市の目指す取り組みが進捗しているものと考えている。</p> <p>[今後の方向性] >児童虐待対応件数の推移を注視しつつも、引き続き、関係機関と連携し、児童虐待発生予防・早期発見・早期対応に努めていく。</p>
		計	0	11	0	0	11/11事業 100%									
	(14) 障害のある子どもへの支援	① 障害のある子どもの早期発見と相談・支援体制	3	14	0	0	1	専門機関・施設等に相談する割合	増加	47.7%	72.1%	68.9%	▲ 3.2 ppt	3	<p>[指標の説明] 子どもの成長や発達、障害に関する不安等について*専門機関・施設に相談する人の割合は、減少。(H28年度のアンケートより、質問の仕方を変更し「相談できる専門機関等がある」と回答した率ではなく、「不安等を感じたときに専門機関等に相談したいと思う」と回答した率を集計した。) *友人や家族を含め、相談できる相手が全くいない人の割合は減少。</p> <p>[評価] >障害のある子どもの早期発見と相談・支援、全保育所での障害児の受入体制の整備、進路アドバイザーや就労支援コーディネーターによる高等部生徒の就労支援など、障害のある子どもの成長過程に応じた支援を行い、障害のある子どもが自立し、社会参加できるための社会環境づくりを着実に推進することができた。</p> <p>>放課後等デイサービスの受入定員は増加しておりまた、放課後等デイサービス利用者の保護者を対象に行ったアンケートでは、94.1%が「お子さんが放課後等デイサービスで過ごすなかで、お子さんの変化(苦手だったことができるようになったなど)を感じることもある」と答えており、支援の充実につながっていると考えている。</p> <p>[今後の方向性] >引き続き、子どもの成長過程に応じ、切れ目なく相談や支援を行い、必要な時に必要な支援を受けることのできる環境整備に取り組む。</p>	
		② 保育所等での障害のある子どもの受け入れや保育内容の充実と、小学校等入学時の情報伝達の強化	1	4	0	0		相談する相手がいない人の割合	維持	4.5%	4.2%	3.5%	▲ 0.7 ppt	2		
		③ 障害のある子どもの放課後対策の充実	1	3	0	0		62/63事業 98.4%	/							
		④ ライフステージを通じた相談支援体制の強化とレスパイトなど保護者の負担軽減の充実	2	12	0	1										
		⑤ 重度の障害のある子どもへの支援の強化	2	11	0	0										
		⑥ 発達障害のある子どもへの支援の充実	2	7	0	0										
		計	11	51	0	1										